

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第1回）

配付資料一覧

- 資料1 揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第1回） 議事次第
- 資料2 揖斐川水源地域ビジョン策定会議 委員名簿
- 資料3 揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第1回） 出席者名簿
- 資料4 揖斐川水源地域ビジョン策定会議 設立の趣意について
- 資料5 揖斐川水源地域ビジョン策定会議 規約（案）
- 資料6 徳山ダム建設事業の概況について
- 資料7 - 1 流域の保全と利活用に向けた「揖斐川水源地域ビジョン」（仮称）づくりの考え方
- 資料7 - 2 流域の保全と利活用に向けた「揖斐川水源地域ビジョン」（仮称）づくりの考え方（説明用）
- 資料8 ビジョン策定のスケジュールについて

資料 1

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第1回）

日時：平成17年10月7日（金）13:30～16:30

場所：桜華会館 松の間

議 事 次 第

1 開 会

2 挨拶

3 委員紹介

4 議 事

(1) 設立の趣意について

(2) 規約及び座長の選出について

(3) 徳山ダム建設事業の概況について（報告事項）

(4) ビジョンの内容について

5 そ の 他

6 閉 会

資料2

揖斐川水源地域ビジョン策定会議 委員名簿

| 分類 | 区分 | 氏名 | 所属 |
|-------|----------|-------|---------------------|
| 学識等委員 | 野生生物管理 | 安藤 辰夫 | 自然学総合研究所 副所長 |
| | 水域環境 | 葛葉 泰久 | 三重大学生物資源部 教授 |
| | 水性生物生態 | 佐藤 正孝 | 名古屋女子大学 名誉教授 |
| | 文化・環境 | 下垣 真希 | ソプラノ歌手・金城学院大学 講師 |
| | 地域計画 | 重網 伯明 | シルバー総合研究所 理事 |
| | 河川工学 | 高木 不折 | 名古屋大学 名誉教授 |
| | 森林保全 | 戸松 修 | 岐阜大学応用生物科学部 教授 |
| | 鳥類生態 | 中村 浩志 | 信州大学教育学部 教授 |
| | 都市計画 | 水尾 衣里 | 名城大学人間学部 助教授 |
| 産業等委員 | 経済団体 | 大野 睦彦 | 社団法人中部経済連合会 常務理事 |
| | 関連地元事業者 | 田中 正敏 | 揖斐郡森林組合 組合長 |
| | | 三輪 幸恵 | 財団法人ふじはし 理事長 |
| | 市民活動 | 渡辺 信行 | NPO揖斐環境レンジャー 理事長 |
| 行政等委員 | 流域市町代表 | 小川 敏 | 大垣市 市長 |
| | 関係地方公共団体 | 渡邊 俊司 | 愛知県企画振興部 部長 |
| | | 浦中 素史 | 三重県地域振興部 部長 |
| | | 遠山 周二 | 名古屋市上下水道局 技術本部長 |
| | 林野庁 | 加藤 元之 | 中部森林管理局岐阜森林管理署 署長 |
| 事務局委員 | 国土交通省 | 細見 寛 | 中部地方整備局河川部 部長 |
| | 地元地方公共団体 | 奥田 邦夫 | 岐阜県建設管理局 局長 |
| | | 宗宮 孝生 | 揖斐川町 町長 |
| | ダム事業者 | 井手 義博 | 独立行政法人水資源機構中部支社 支社長 |

資料3

揖斐川水源地域ビジョン策定会議（第1回） 出席者名簿

| 分類 | 区分 | 氏名 | 所属 |
|-------|----------|-------------------------|-----------------------|
| 学識等委員 | 野生生物管理 | 安藤 辰夫 | 自然学総合研究所 副所長 |
| | 水域環境 | 葛葉 泰久 | 三重大学生物資源部 教授 |
| | 水性生物生態 | 佐藤 正孝 | 名古屋女子大学 名誉教授 |
| | 文化・環境 | 下垣 真希 | ソプラノ歌手・金城学院大学 講師 |
| | 地域計画 | 重網 伯明 | シルバー総合研究所 理事 |
| | 河川工学 | 高木 不折 | 名古屋大学 名誉教授 |
| | 森林保全 | 戸松 修 | 岐阜大学応用生物科学部 教授 |
| | 都市計画 | 水尾 衣里 | 名城大学人間学部 助教授 |
| 産業等委員 | 経済団体 | 大野 睦彦 | 社団法人中部経済連合会 常務理事 |
| | 関連地元事業者 | 三輪 幸恵 | 財団法人ふじはし 理事長 |
| 行政等委員 | 流域市町代表 | 渥美 智康 | 大垣市 技監（代理出席） |
| | 関係地方公共団体 | 早川 吉夫 | 愛知県企画振興部 水資源監（代理出席） |
| | | 辻 英典 | 三重県地域振興部 資源活用室長（代理出席） |
| | | 遠山 周二 | 名古屋市上下水道局 技術本部長 |
| 林野庁 | 中尾 修三 | 中部森林管理局名古屋事務所 副所長（代理出席） | |
| 事務局委員 | 国土交通省 | 細見 寛 | 中部地方整備局河川部 部長 |
| | 地元地方公共団体 | 奥田 邦夫 | 岐阜県建設管理局 局長 |
| | | 宗宮 孝生 | 揖斐川町 町長 |
| | ダム事業者 | 井手 義博 | 独立行政法人水資源機構中部支社 支社長 |

資料 4

揖斐川水源地域ビジョン策定会議 設立の趣意について

徳山ダムは、昭和46年実施計画調査着手以来、35年を経てダム本体の雄姿が見えはじめ、平成18年秋には試験湛水を、そして平成20年3月には完成を迎える予定となっています。

この徳山ダムが完成すれば、湖面の広さは諏訪湖と同程度、貯水容量は浜名湖の約2倍の日本一のダムとなります。

また、ダム上流域は私有地を公有地化することにより、世界遺産に指定された白神山地の約1.5倍、屋久島の約2.5倍という254Km²の広大な山地を自然豊かな水源地域として保全していくこととなります。

その流域は、日本海型気候と太平洋型気候の移行帯に位置し、豊富な植物相、希少野生生物をはじめ、豊かな自然環境に恵まれています。

以上の特徴を踏まえ、徳山ダム上流域を核とする揖斐川水源地域を我が国の貴重な資産と位置づけ、その地域の自立的、持続的な活性化を図るため、その保全と利活用を図る方策として「揖斐川水源地域ビジョン」(仮称)を策定することとし、本会議を設立するものです。

資料5

揖斐川水源地域ビジョン策定会議 規約（案）

（名 称）

第1条 本策定会議は、「揖斐川水源地域ビジョン策定会議」（以下「策定会議」という。）と称する。

（目 的）

第2条 策定会議は、徳山ダム上流域を核とする揖斐川水源地域の自立的、持続的な活性化を図るための「揖斐川水源地域ビジョン」（仮称）を策定することを目的とする。

（策定会議）

第3条 策定会議は、別表に掲げる委員をもって構成する。

- 2 策定会議には座長を置き、座長は委員の互選によって、これを定める。
- 3 座長は会務を統括する。
- 4 策定会議は座長が招集する。
- 5 策定会議は、必要ある場合、部会や懇談会を設け、または関係者の出席を求め、意見や提案を受けることができる。

（公 開）

第4条 策定会議は、原則として公開とする。

- 2 ただし、座長が必要と認めた場合には非公開とすることができる。

（事務局）

第5条 策定会議の事務局は、国土交通省中部地方整備局河川部、岐阜県基盤整備部、揖斐川町及び独立行政法人水資源機構中部支社建設部に置くものとする。

（雑 則）

第6条 この規約に定めるものの他、策定会議の運営に関する必要な事項は、策定会議に諮って定めるものとする。

（付 則）

この規約は、平成17年 月 日から施行する。

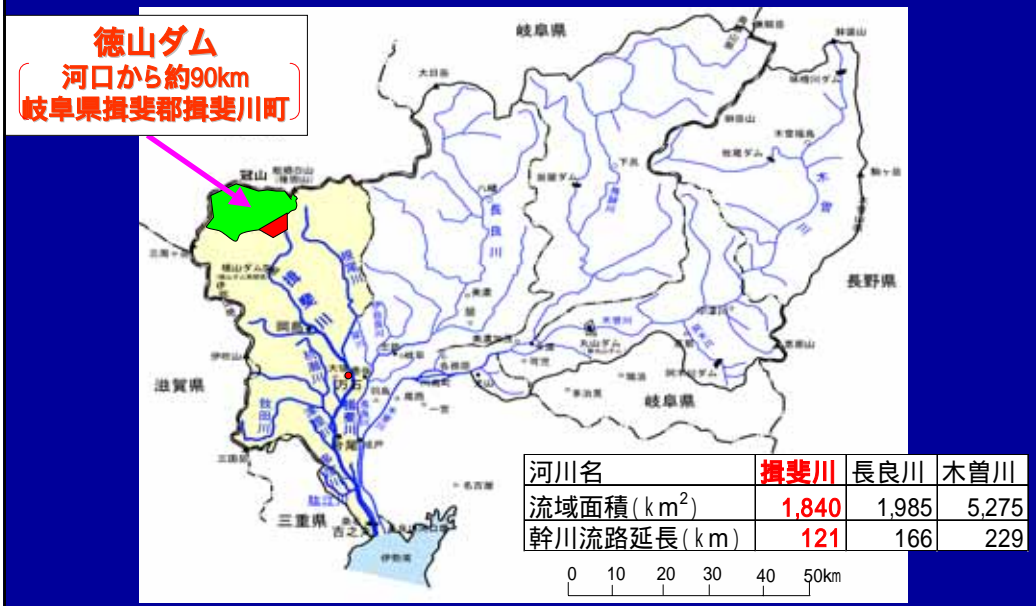
揖斐川水源地域ビジョン策定会議 委員名簿

| 分類 | 区分 | 氏名 | 所属 |
|-------|----------|-------------------|---------------------|
| 学識等委員 | 野生生物管理 | 安藤 辰夫 | 自然学総合研究所 副所長 |
| | 水域環境 | 葛葉 泰久 | 三重大学生物資源部 教授 |
| | 水性生物生態 | 佐藤 正孝 | 名古屋女子大学 名誉教授 |
| | 文化・環境 | 下垣 真希 | ソプラノ歌手・金城学院大学 講師 |
| | 地域計画 | 重網 伯明 | シルバー総合研究所 理事 |
| | 河川工学 | 高木 不折 | 名古屋大学 名誉教授 |
| | 森林保全 | 戸松 修 | 岐阜大学応用生物科学部 教授 |
| | 鳥類生態 | 中村 浩志 | 信州大学教育学部 教授 |
| | 都市計画 | 水尾 衣里 | 名城大学人間学部 助教授 |
| 産業等委員 | 経済団体 | 大野 睦彦 | 社団法人中部経済連合会 常務理事 |
| | 関連地元事業者 | 田中 正敏 | 揖斐郡森林組合 組合長 |
| | | 三輪 幸恵 | 財団法人ふじはし 理事長 |
| | 市民活動 | 渡辺 信行 | NPO揖斐環境レンジャー 理事長 |
| 行政等委員 | 流域市町代表 | 小川 敏 | 大垣市 市長 |
| | 関係地方公共団体 | 渡邊 俊司 | 愛知県企画振興部 部長 |
| | | 浦中 素史 | 三重県地域振興部 部長 |
| | | 遠山 周二 | 名古屋市上下水道局 技術本部長 |
| 林野庁 | 加藤 元之 | 中部森林管理局岐阜森林管理署 署長 | |
| 事務局委員 | 国土交通省 | 細見 寛 | 中部地方整備局河川部 部長 |
| | 地元地方公共団体 | 奥田 邦夫 | 岐阜県建設管理局 局長 |
| | | 宗宮 孝生 | 揖斐川町 町長 |
| | ダム事業者 | 井手 義博 | 独立行政法人水資源機構中部支社 支社長 |

徳山ダム建設事業の概況について



徳山ダムの位置



徳山ダム建設事業の経緯

| | |
|----------|--|
| 昭和32年12月 | 揖斐川上流域を電源開発促進法に基づく調査区域に指定 |
| 昭和46年4月 | 実施計画調査の開始 |
| 昭和51年9月 | 事業実施計画の認可 |
| 昭和58年11月 | 一般補償基準の妥結調印 |
| 昭和61年3月 | 公共補償協定の締結 |
| 昭和62年4月 | 徳山村が藤橋村に廃置分合 |
| 平成元年3月 | 466世帯すべての移転契約完了 |
| 平成9年2月 | 徳山ダム建設事業審議委員会（平成7年12月設置）から意見提出 （徳山ダムは治水・利水の緊急性、重要性からみて早期に完成させるべき） |
| 平成10年12月 | 土地収用法に基づく事業認定告示 |
| 平成12年3月 | 堤体建設一期工事に着手 |
| 平成15年8月 | 事業費の変更について公表 |
| 平成16年4月 | 中部地方整備局事業評価監視委員会で「徳山ダム建設事業・横山ダム再開発事業の継続」了承 |
| 平成16年6月 | 木曾川水系における水資源開発基本計画の全部変更 |
| 平成16年7月 | 事業実施計画変更（第3回）の認可 |
| 平成17年1月 | 藤橋村を含む揖斐郡1町5村が合併し、揖斐川町が誕生 |

徳山ダムの目的

洪水調節

ダム地点における計画高水流量 $1,920\text{m}^3/\text{s}$ の全量の洪水調節を行い、揖斐川の高水流量を低減。



平成14年7月 台風6号



平成16年10月 台風23号

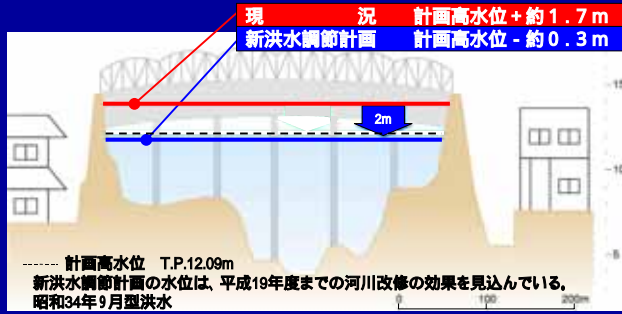
大垣市荒崎地区の被災状況

徳山ダムの目的

洪水調節



徳山ダム・横山ダム再開発による洪水調節の効果(万石地点)



万石地点(河口から約40.6km)において、水位を現況より約2.0m低下させることが可能。

徳山ダムの目的

洪水調節

木曽川水系の洪水調節は、6ダムで約303百万m³の洪水調節容量により実施(建設中含む)
ダムによる洪水調節容量を市街地で確保することは極めて困難

| 区分 | | | | 総貯水容量 (千m ³) | 洪水調節容量 (千m ³) |
|-------------|---------|-----|-----------|-----------------------------|------------------------------|
| 木 曽 川 | (横山ダム) | 国交省 | 完成 | (43,000) | (22,000) |
| | (丸山ダム) | | | (79,520) | (20,170) |
| | 横山ダム再開発 | | 建設中 | 32,700 | 29,600 |
| | 新丸山ダム | | | 146,350 | 72,000 |
| | 岩屋ダム | 水機構 | 完成 | 173,500 | 50,000 |
| | 阿木川ダム | | | 48,000 | 16,000 |
| | 味噌川ダム | | | 61,000 | 12,000 |
| | 徳山ダム | | | 660,000 | 123,000 |
| 計 | | | 1,121,550 | 302,600 | |

- 徳山ダムの総貯水容量を遊水地(平均水深2m)で確保とした場合、330km²の土地が必要で、名古屋市の面積に匹敵する。
(660,000千m³ ÷ 2m ÷ 1,000,000 = 330km²)
- 同様に、徳山ダムの洪水調節容量では61.5km²となり、桑名市の面積に匹敵する。

参考:
揖斐川近傍の
主要市面積

| 市名 | 面積(km ²) |
|------|----------------------|
| 名古屋市 | 326.46 |
| 藤橋村 | 324.48 |
| 岐阜市 | 195.12 |
| 大垣市 | 79.75 |
| 桑名市 | 57.30 |
| 羽島市 | 53.64 |

徳山ダムの目的

流水の正常な機能の維持

揖斐川の既得用水の補給、河川環境の維持・保全など、流水の正常な機能の維持と増進。
また、木曾川水系の異常渇水時に緊急水を補給。



瀬切れ解消のイメージ



徳山ダムの目的

新規利水

岐阜県・愛知県・名古屋市の水道用水として最大 $4.5\text{m}^3/\text{s}$
(約123万人の水道使用量に相当： $316\text{t}/\text{人}\cdot\text{日}$)
岐阜県・名古屋市の工業用水として最大 $2.1\text{m}^3/\text{s}$

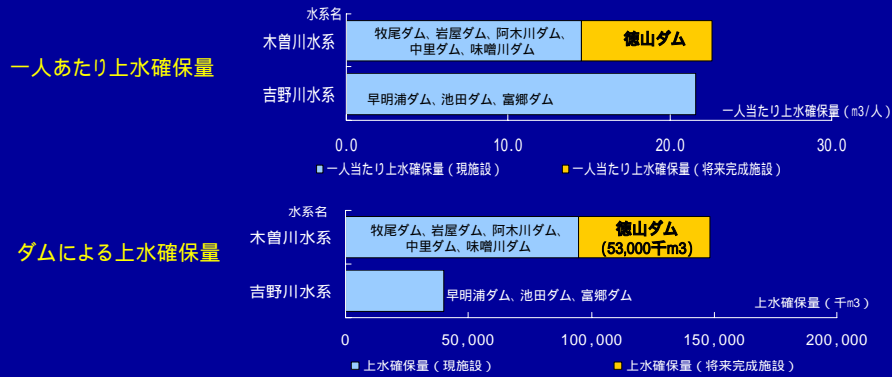


徳山ダムの目的

新規利水

木曾川水系における徳山ダムの利水効果

木曾川水系と吉野川水系(フルプラン全部変更済み水系)におけるダムによる一人あたり上水確保量及びダムによる上水確保量の比較

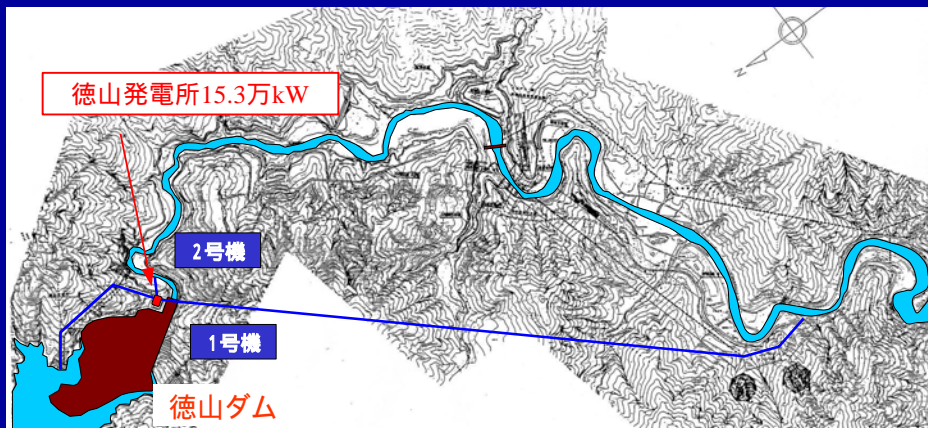


グラフの作成に当たっては、以下の資料等を参考としている。
 ・ダム年鑑2004,財団法人日本ダム協会
 ・平成15年住民基本台帳人口要覧,財団法人国土地理協会

徳山ダムの目的

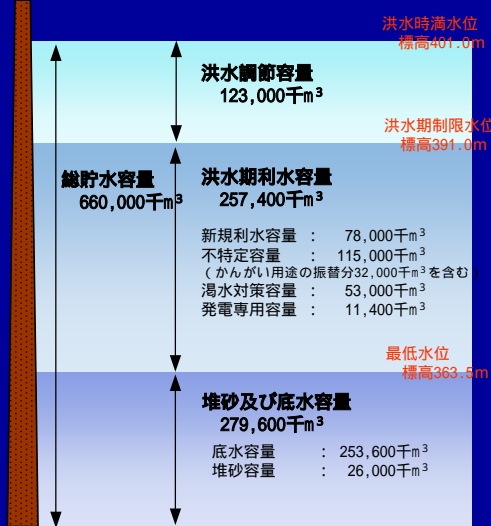
発電

最大出力153,000kW (徳山発電所、電源開発(株))



徳山ダム貯水容量配分及び諸元

容量配分図



ダム諸元

| | |
|------|---|
| 位置 | 右岸：岐阜県揖斐郡揖斐川町開田、鶴見 左岸：岐阜県揖斐郡揖斐川町徳山、東杉原 |
| 形式 | 中央遮水壁型ロックフィルダム |
| 堤高 | 161m |
| 堤頂長 | 427.1m |
| 堤頂標高 | 406m |
| 堤体積 | 約13,700,000m ³ |

貯水池諸元

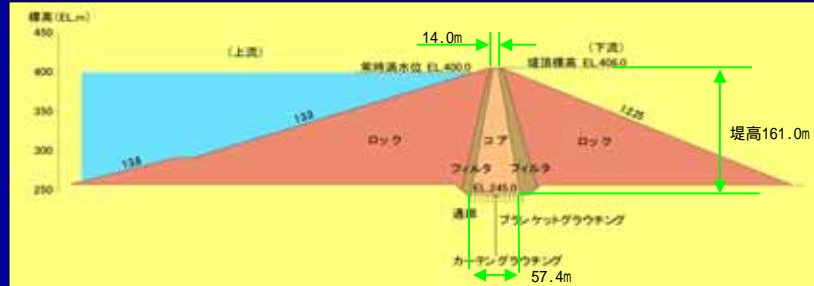
| | |
|--------|-------------------------|
| 集水面積 | 約254.5km ² |
| 湛水面積 | 約13km ² |
| 総貯水容量 | 約6億6,000万m ³ |
| 有効貯水容量 | 約3億8,040万m ³ |

事業の進捗状況



徳山ダム断面図

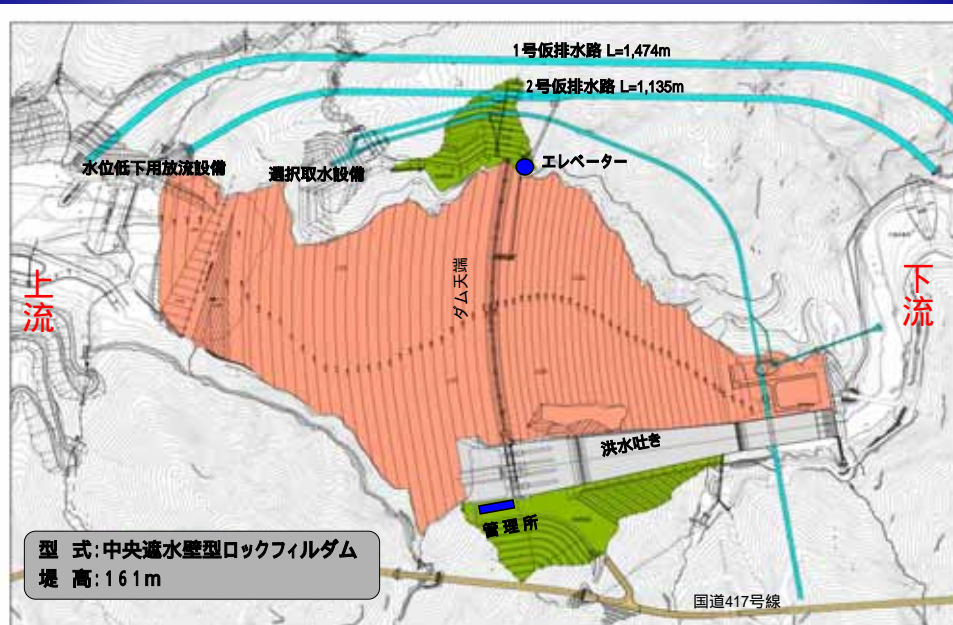
堤体標準断面図



堤体ダム軸縦断面図（上流から下流を望む）



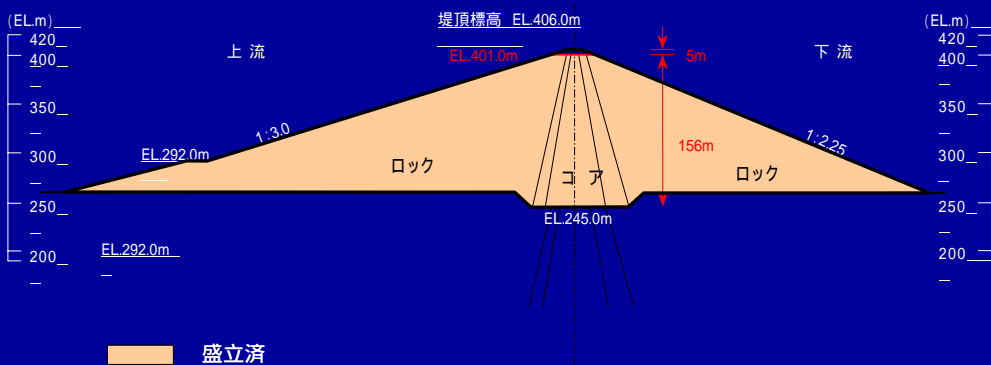
徳山ダム平面図



施工計画概要

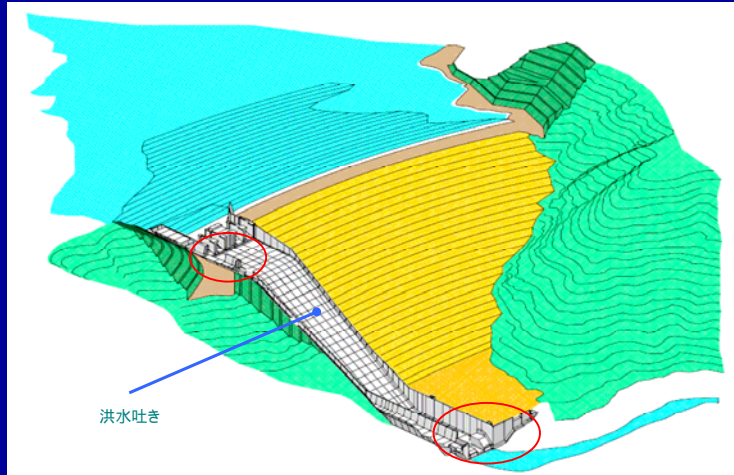


堤体盛立状況 (平成17年9月30日現在)



| 設計数量 | 打設済数量 | 進捗率 |
|--------------------------|--------------------------|-----|
| 13,700,000m ³ | 13,566,000m ³ | 99% |

洪水吐きコンクリート打設状況(平成17年9月30日現在)



コンクリート打設済箇所
 残施工箇所

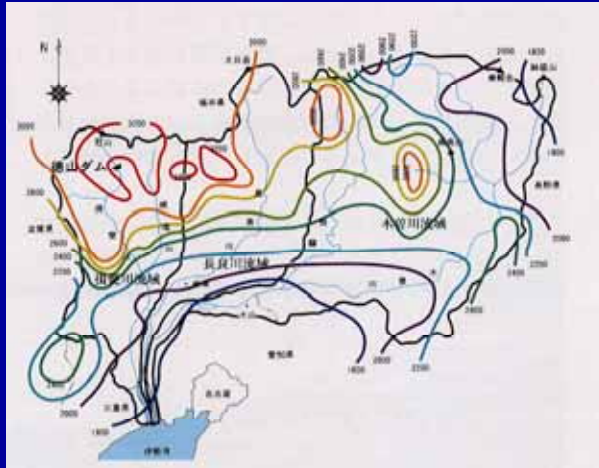
| 設計打設数量 | 打設済数量 | 進捗率 |
|-----------------------|-----------------------|-----|
| 220,000m ³ | 216,500m ³ | 98% |

ダムサイト左岸から右岸を望む

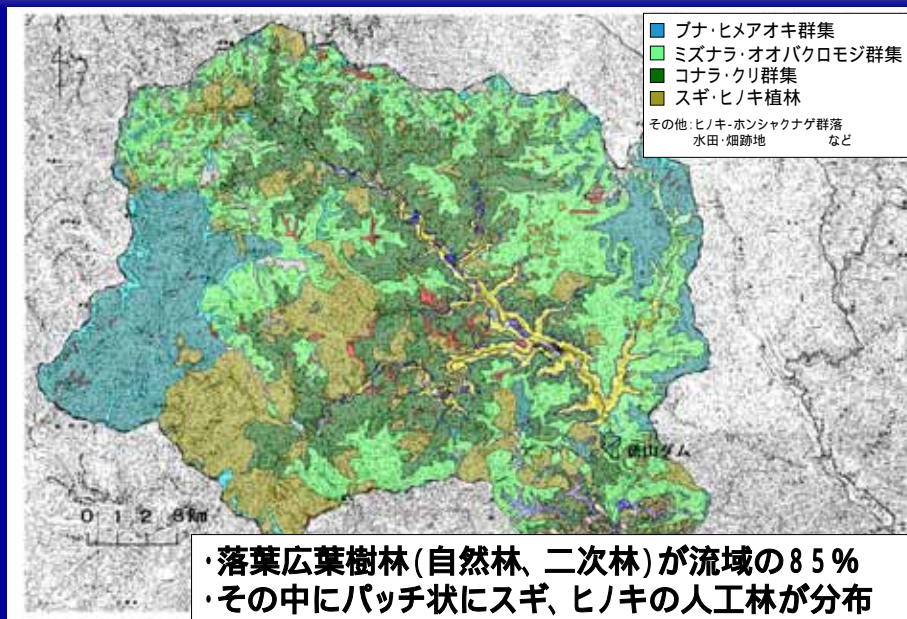


徳山ダム流域の特徴

- ・日本列島のほぼ真ん中(N35°40'・E136°30')に位置する。
- ・岐阜、福井、(滋賀)の県境。流域面積約254.5km²。
- ・揖斐川最上流域。両白山系。EL.250~1,600m。能郷白山1,617m。冠山1,257m。
- ・多雨・多雪、多雨地帯。夏 - 東海型、冬 - 北陸型。年間降水量約3,000mm超。積雪最大3.5m。



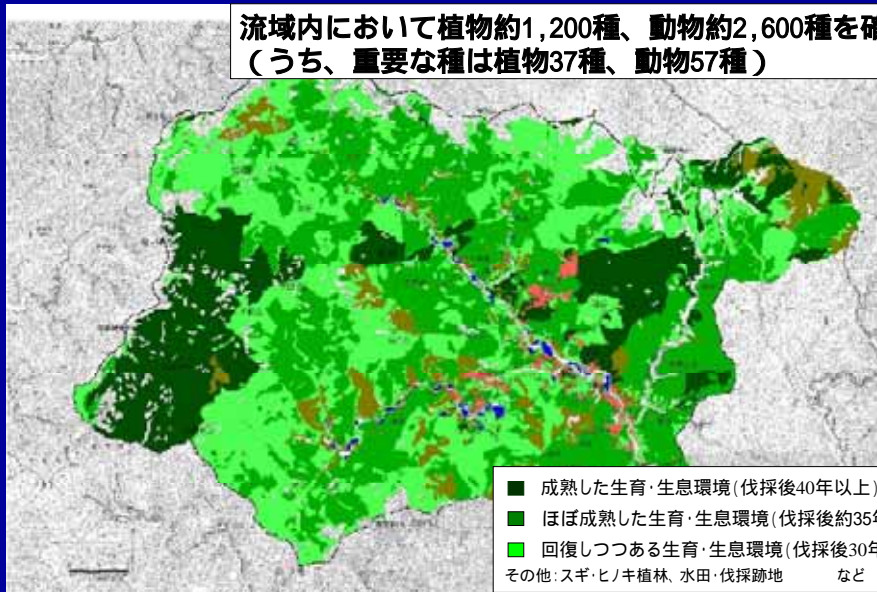
徳山ダム流域の植生



- ・落葉広葉樹林(自然林、二次林)が流域の85%
- ・その中にパッチ状にスギ、ヒノキの人工林が分布

徳山ダム流域の生育・生息環境

流域内において植物約1,200種、動物約2,600種を確認。
(うち、重要な種は植物37種、動物57種)



徳山ダム流域の希少猛禽類

イヌワシ

徳山ダム周辺で5つがいを確認

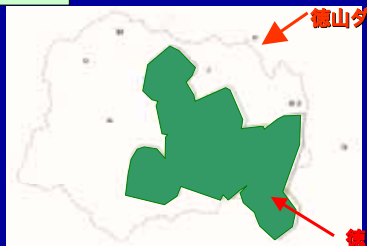


事業に関連する
イヌワシ2つがいを



クマタカ

徳山ダム周辺で17つがいを確認



事業に関連する
クマタカ9つがいを



徳山ダム の 環境保全に関する基本理念

《基本理念》

「自然と共生したダムづくり」

徳山ダムにおける「自然と共生したダムづくり」とは、「郷土種の尊重・保全」を進めることにあります。

流域全体の適正な管理

生物多様性の保全

河川環境の保全

モニタリング体制の整備

《保全対策を具体化した作戦計画》

ありのまま残そう大作戦

流域内の自然環境を可能な限り手つかずのまま残すための方策

郷帰り大作戦・引越し大作戦

事業実施により、インパクトが避けられない保全対象について、可能な限り元の姿に戻すための方策

思いやり大作戦

自然への思いやりとして、工事実施により周辺環境へ与えるインパクトを可能な限り軽減する方策

見守っていこう大作戦

モニタリングとして、実施した環境保全対策の効果把握するとともに、ダム周辺の環境変化も把握する

エコマップ

- ・エコマップは、徳山ダムにおいて環境保全対策を示したものである。
- ・保全対策の効果や湛水後の周辺環境の変化については、モニタリングを実施する。



ありのまま残そう大作戦



思いやり大作戦

見守っていこう
大作戦



引越し大作戦・郷帰り大作戦

環境保全の取り組み

ダム堤体材料の採取場所の変更

取り組みの効果

- ・地形改変の回避・低減
- ・省エネルギー
- ・既設ダム貯水池の貯水容量回復によるリフレッシュ化
- ・堆積土砂の再資源化

堆積土砂除去作業

環境保全の取り組み

道路計画の見直し(トンネル化・橋梁化)

国道、県道・ルートの変更

付替道路による地形改変の回避・低減を目的として、トンネル・橋梁化

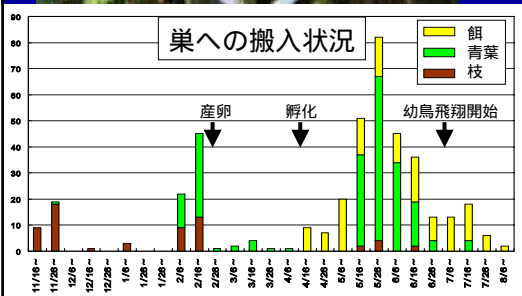
明かり道路
法面や擁壁などにより、地形を大きく改変

トンネル
地形改変を回避・低減

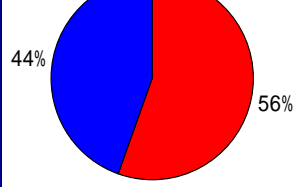
道路計画の見直しによる地形改変の回避イメージ

猛禽類調査から得られた知見

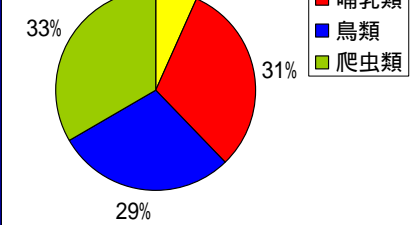
CCDカメラによる繁殖状況の把握



・餌搬入の割合



・餌動物の割合



山林公有地化事業の概要

1) 経緯

「徳山ダム上流域公有地化に係る要望」 平成13年2月20日 揖斐川流域住民の生命と生活を守る市町村連合

徳山ダム上流域の環境保全のため、流域25市町村(合併により現在は15市町)は県との協働作業で県有地化を進めていく

「徳山ダム上流域の公有地化に関する確認書」 平成13年3月29日

- 1) 公有地化は、岐阜県が行う
- 2) 公有地化に伴い、水没する村林道に代わる道路整備は行わない
(整備済みの付替村道西谷線の一部区間を除く)
- 3) 公有地化に伴う山林の取得に要する費用は、水資源機構が負担する
- 4) 公有地化に伴う水源地生態系の保全は、岐阜県、流域25市町村(合併により現在は15市町)及び水資源機構が協働して行う

「公共補償協定書の一部を変更する協定書」 平成13年3月29日

付替道路の基本計画の変更
・水没する村林道に代わる道路整備は、施工済みの村道西谷線の一部のみとする

「ダム周辺山林保全措置に対する費用負担制度」を適用。

平成12年度に建設省が創設した制度。
ダムで水没する道路の付替えに代え、地元地方公共団体等がダムの周辺山林の取得及び当該山林管理のための施設整備を行う場合に、ダム事業者が付替道路整備費の範囲内で、その費用の一部又は全部を負担する制度。

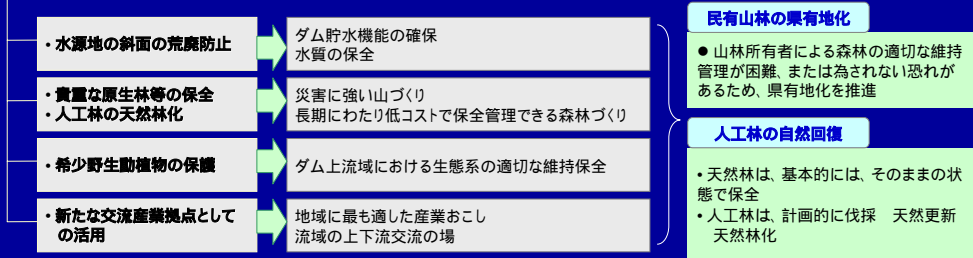


山林公有地化事業の内容

1) 山林公有地化事業の目的

徳山ダム上流域における水源地の斜面の荒廃防止、
良好な自然環境の保全・創出及び新たな交流拠点としての活用等

公有地化の4つの視点



山林公有地化事業の内容

2) 公有地化事業の範囲

徳山ダム上流域 = 約 254 km²
 国有地、県有地、町有地は除く → 取得対象山林の面積 = 約 180 km²

山林公有地化は、公共補償として付替町林道を整備することの代替措置として、「ダム周辺の山林保全措置に対する費用負担制度」を適用して行うものであり、その対象は公共補償を不要とするために必要な区域（既存道路の機能の及ぶ範囲の森林区域等）とされている。
 徳山ダム流域には、福井県及び揖斐川町の流域境まで整備されている既存道路があり、その機能の及ぶ範囲である徳山ダム上流域が山林公有地化の対象となる。



流域の保全と利活用に向けた
「揖斐川水源地域ビジョン」(仮称)づくりの考え方

2005 年 10 月

流域の保全と利活用に向けた「揖斐川水源地域ビジョン」(仮称)づくりの考え方

水源地域の総合的な整備と発展

徳山ダム上流域を核とする揖斐川水源地域は、希少野生生物をはじめ、豊かな自然環境が残されている一方で、旧徳山村は全村移転等により、森林等地域資源の管理者が不在という状況。こうした中、徳山ダムは、完成すれば貯水量日本一で日本有数の規模となるほか、本邦初の規模の山林公有地化事業を導入するダムとなる予定。このような状況を踏まえ、流域圏の住民共通の財産として、産学官はもとより、NPOや流域住民をはじめ、多様な主体の参加と連携を通じ、豊かな自然環境の保全と、自然環境そのものを活かした利活用を図り、揖斐川流域の発展に貢献することが期待

水源地域管理のあり方

貴重な自然環境の保全

将来に向けた適正な流域の管理により、残された貴重な自然環境の保全が必要

旧徳山村の全村移転への対応

旧徳山村の全村移転、さらに森林所有者の高齢化等により、水源地域私有林の管理能力が減退し、森林の荒廃化が懸念
水没により失われる山村の歴史文化の継承が困難
これらへの的確な対応が必要

流域圏のつながり

徳山ダムは流域に残された最後の「水瓶」で、流域が一体となって守っていくべき貴重な水源地域として、その管理とともに、自然とのふれあいや交流の場等としての活用など、広がりのある圏域の視点が必要

流域外とのつながり

山稜をまたいで連続する福井県及び滋賀県など、周辺地域との自然環境及び歴史文化のつながりを発展継承する視点も必要

環境問題への関心の高まり

国民や企業の環境問題への関心が高まっており、それぞれが自然環境の保全、地球環境問題に係わる機会を希求

基本的な考え方

関係者・関係機関の協力体制の下、ダム完成までの間に、国、地元地方公共団体、ダム事業者が主体となって、徳山ダム上流域水源生態系保全計画等の他と計画と調整しつつ、水源地域ビジョンを策定し、水源地域の自然環境の保全と利活用を推進

岐阜県による公有地化事業の推進

- ・ 私有山林の県有地化
- ・ 天然林の保全など、適切な森林管理を推進
- ・ 保全・利活用の舞台の提供

ビジョンを通じた共有財産としての管理

- ・ 岐阜県の山林公有地化を機軸と捉え、関係者の参加と連携による水源地域ビジョンづくりを推進
- ・ 関係機関の協力を得て、揖斐川の流域住民が主役となった保全と利活用のあり方を検討・展開

国、三県一市、NPO、関係機関等の参加と連携

実施協力体制

- NPO・地元住民
多様な主体の参加と連携による自然環境の保全、利活用の推進
- 三県一市（岐阜県・愛知県・三重県・名古屋市）
岐阜県は、水源地域の公有地化による県有林の自然環境の保全、利活用の推進
- 二県一市の参加と連携による自然環境の保全、利活用の推進
揖斐川流域自治体
上下流交流を通じた自然環境の保全、利活用の推進
- 国
・ 国土交通省
総合的な水源地域対策や砂防事業等による流域保全を推進
- ・ 林野庁
森林の保全・整備への支援、国有林の管理
「越美山地緑の回廊」 自然環境の保全、野生生物の移動経路の確保等
- 水資源機構
ダム及びダム湖や湖岸樹林帯の管理
ダム管理者としての流域自然環境の保全及び利活用の推進
- 森林管理者
・ 森林計画に基づく適切な森林の保全・整備
- 大学・民間企業等
・ 流域の保全と利活用に関連した調査研究の推進
- ・ 産官学の連携等による新スタイルの起業（専門家の指導による体験型キャンプなど）へのチャレンジ

保全と利活用のイメージ

1 流域の保全

豊かな自然環境の保全・創出

- ・ 貴重な天然林等の保全
- ・ 二次林の整備(間伐等)
- ・ 希少野生動植物の保護 サンクチュアリとしての保全・整備
- ・ 法規制等による生態系保全 鳥獣保護区、森林計画による機能区分、国有林の保護林等

流域森林の整備

- ・ 荒廃人工林の天然林化等の森林整備による水源かん養・土砂流出防備等の機能の維持・保全や保安林の整備
- ・ ダム湖斜面の荒廃防止 樹林帯制度の導入による整備

2 利活用

憩いの場

- ・ 住民の憩いの場

体験学習の場

- ・ 自然観察や植林、伐採等森林整備の体験
- ・ 木工や炭焼きなど地元生活文化の体験
- ・ ダム堤体やダム湖等の見学体験 案内施設、資料展示及び湖上(舟)など見学ルートの整備

- ・ 自然観察や体験学習のエコツアーの開設

自然観察路、拠点等の整備及び指導・案内人養成

交流の場

- ・ 上下流交流の場や企業貢献の場

新たな交流産業振興の場

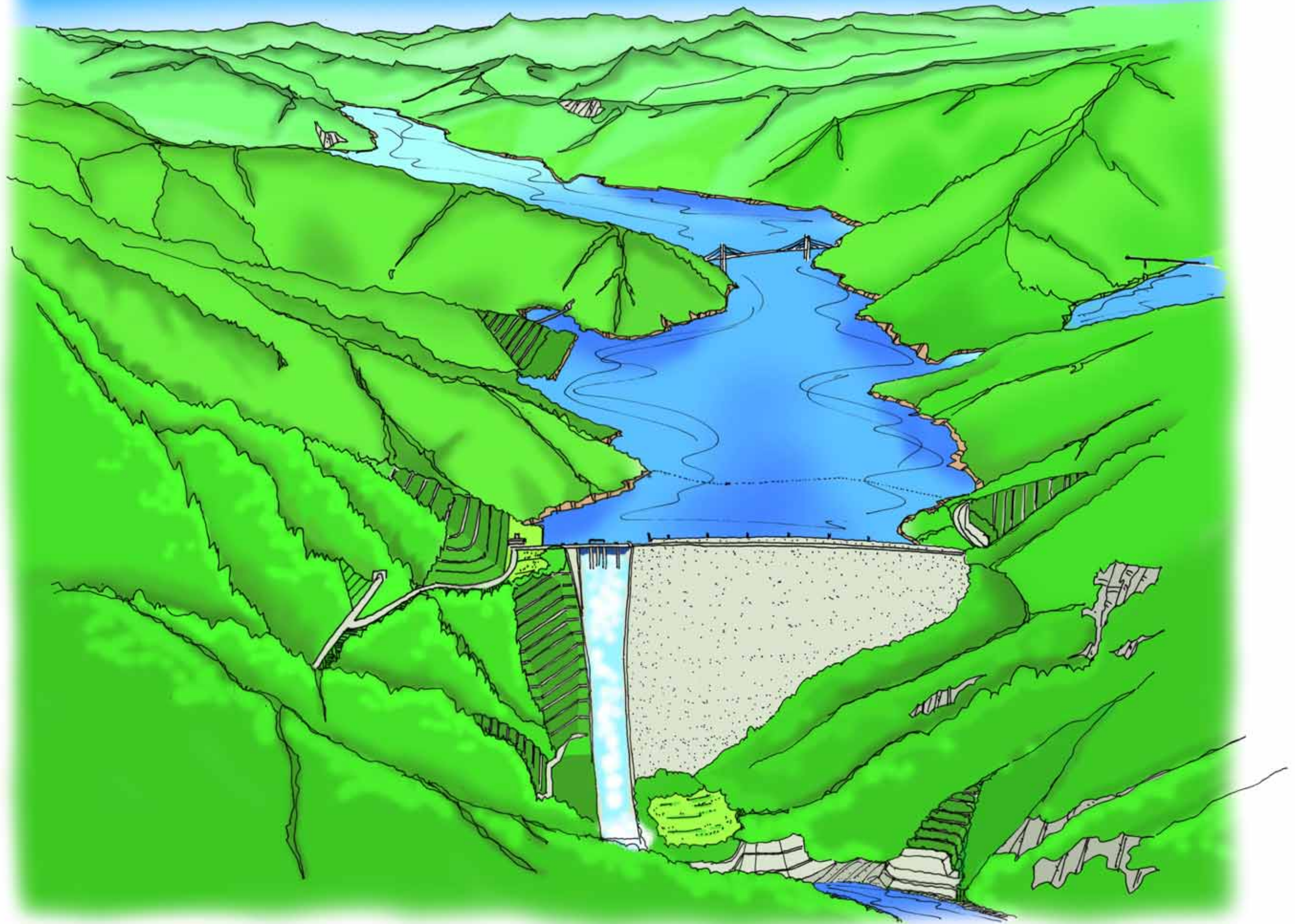
- ・ 自然環境や優れた景観を活かした地域振興
- ・ 日本有数のダム湖を活かした従来の開発型ではない新しい発想の交流型産業の起業

調査研究の場

- ・ 大学等研究者への調査研究の場の提供
- ・ 先駆的調査研究による流域の自然環境保全

歴史文化継承の場

- ・ 全村移転した徳山村の歴史文化の継承 保存、移設、記録等
- ・ 旧村民による生活文化の継承
- ・ 林業技術や生活文化の体験学習の場





貴重な天然林等の保全





エコツアー・ハイキング



エコツアー（子供の環境学習）



自然観察



安全な水辺での自然観察



炭焼き体験



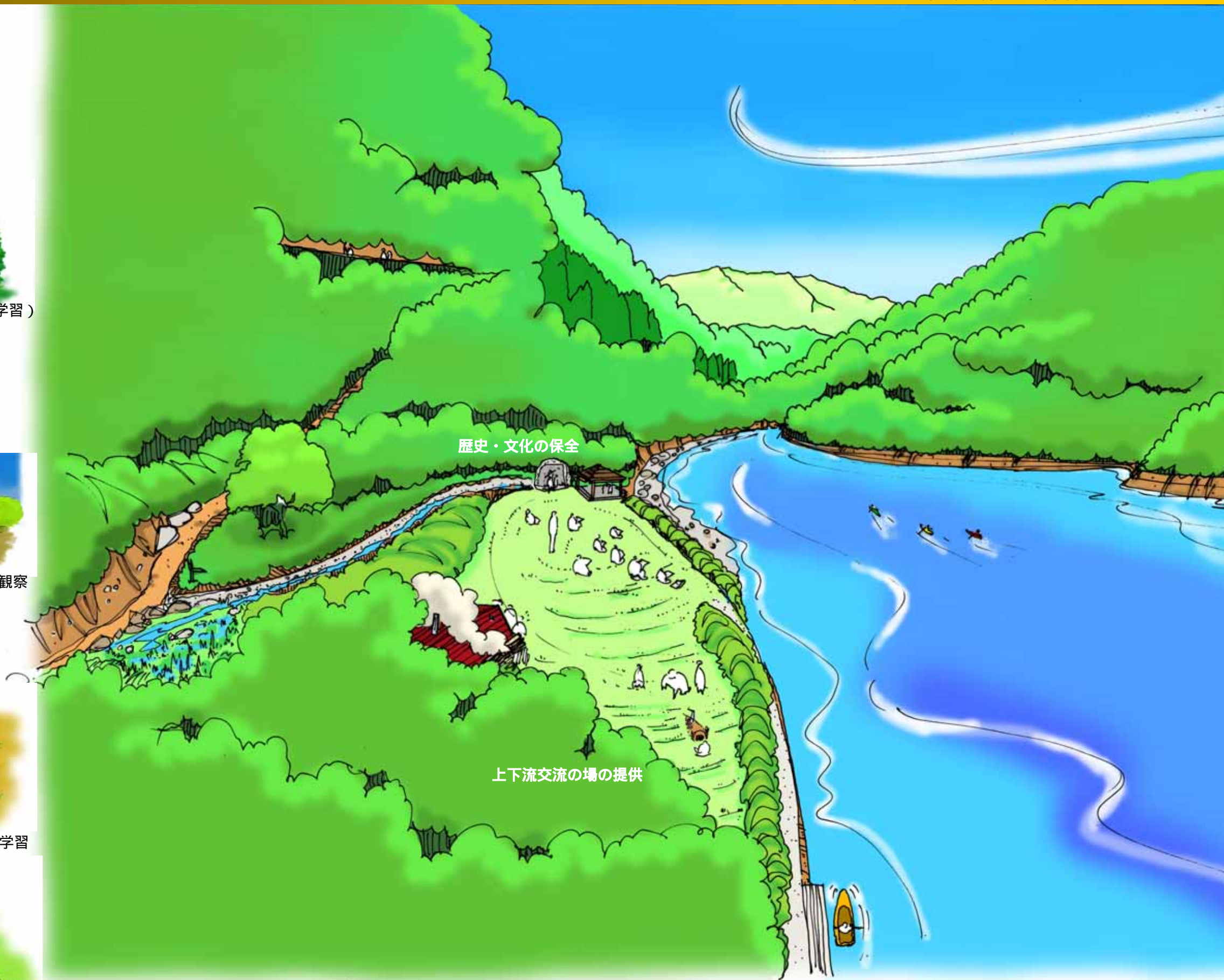
子供の炭焼き体験学習



植林等の森林管理体験



調査・研究の場の提供



歴史・文化の保全

上下流交流の場の提供

流域の保全と利活用に向けた「揖斐川水源地域ビジョン」(仮称)づくりの考え方

第1回 揖斐川水源地域ビジョン策定会議

流域の保全と利活用に向けた 「 揖斐川水源地域ビジョン 」(仮称) づくりの考え方

平成17年10月7日

水源地域の総合的な整備と発展

- ・ 徳山ダム上流域を核とする揖斐川水源地域は、
希少野生生物をはじめ、豊かな自然環境が残されている
- ・ 一方で、旧徳山村は全村移転等により、
森林等地域資源の管理者が不在
- ・ 徳山ダムは、完成すれば貯水量日本一、
本邦初の規模の山林公有地化事業を導入するダムとなる
- ・ 流域圏の住民共通の財産として、産学官はもとより、
NPOや流域住民をはじめ、多様な主体の参加と連携を通じ、
豊かな自然環境の保全と、自然環境そのものを生かした
利活用を図り、揖斐川流域の発展に貢献することが期待

流域の保全と利活用に向けた
「揖斐川水源地域ビジョン」(仮称)づくりの考え方

水源地域の総合的な整備と発展

水源地域管理のあり方

- 貴重な自然環境の保全
- 旧徳山村の全村移転への対応
- 流域圏のつながり
- 流域外とのつながり
- 環境問題への関心の高まり

基本的な考え方

- 岐阜県による
公有地化事業の推進
- ビジョンを通じた
共有財産としての管理
- 国、三県一市、NPO、
関係機関等の参加と連携
- 【実施協力体制】
 - ・NPO・地元住民
 - ・三県一市(岐阜県・愛知県・三重県・名古屋市)
 - ・揖斐川流域自治体
 - ・国(国土交通省・林野庁)
 - ・水資源機構
 - ・森林管理者
 - ・大学・民間企業等

保全と利活用のイメージ

- 1 流域の保全
豊かな自然環境の保全・
創出
流域森林の整備
- 2 利活用
憩いの場
体験学習の場
交流の場
新たな交流産業振興の場
調査研究の場
歴史文化継承の場

水源地域管理のあり方

貴重な自然環境の保全

将来に向けた適正な流域の管理により、残された貴重な自然環境の保全が必要

旧徳山村の全村移転への対応

旧徳山村の全村移転、さらに森林所有者の高齢化等により、
水源地域私有林の管理能力が減退し、森林の荒廃化が懸念
水没により失われる山村の歴史文化の継承が困難
これらへの的確な対応が必要

流域圏のつながり

徳山ダムは流域に残された最後の「水瓶」で、流域が一体となって守っていくべき貴重な水源地域として、その管理とともに、自然とのふれあいや交流の場等としての活用など、広がりのある圏域の視点が必要

流域外とのつながり

山稜をまたいで連続する福井県及び滋賀県など、周辺地域との自然環境及び歴史文化のつながりを発展継承する視点も必要

環境問題への関心の高まり

国民や企業の環境問題への関心が高まっており、それぞれが自然環境の保全、地球環境問題に係わる機会を希求

基本的な考え方

関係者・関係機関の協力体制の下、ダム完成までの間に、国、地元地方公共団体、ダム事業者が主体となって、徳山ダム上流域水源地生態系保全計画等の他と計画と調整しつつ、水源地域ビジョンを策定し、水源地域の自然環境の保全と利活用を推進

岐阜県による公有地化事業の推進

- ・私有山林の県有地化
- ・天然林の保全など、適切な森林管理を推進
- ・保全・利活用の舞台の提供

国、三県一市、NPO、関係機関等の参加と連携

【実施協力体制】

NPO・地元住民：多様な主体の参加と連携による自然環境の保全、利活用の推進

三県一市(岐阜県・愛知県・三重県・名古屋市)

岐阜県は、水源地域の公有地化による県有林の自然環境の保全、利活用の推進

二県一市の参加と連携による自然環境の保全、利活用の推進

揖斐川流域自治体：上下流交流を通じた自然環境の保全、利活用の推進

国

- ・国土交通省：総合的な水源地域対策や砂防事業等による流域保全を推進
- ・林野庁：森林の保全・整備への支援、国有林の管理
「越美山地緑の回廊」 自然環境の保全、野生生物の移動経路の確保等

水資源機構：ダム及びダム湖や湖岸樹林帯の管理
ダム管理者としての流域自然環境の保全及び利活用の推進

森林管理者：森林計画に基づく適切な森林の保全・整備

大学・民間企業等：流域の保全と利活用に関連した調査研究の推進
産官学の連携等による新スタイルの起業（専門家の指導による体験型キャンプなど）へのチャレンジ

ビジョンを通じた共有財産としての管理

- ・ 岐阜県の山林公有地化を機軸と捉え、関係者の参加と連携による水源地域ビジョンづくりを推進



- ・ 関係機関の協力を得て、揖斐川の流域住民が主役となった保全と利活用のあり方を検討・展開

徳山ダム上流域

保全と利活用のイメージ



ダム全体図

1 流域の保全

豊かな自然環境の保全・創出

- ・貴重な天然林等の保全
- ・二次林の整備(間伐等)
- ・希少野生動植物の保護 サンクチュアリとしての保全・整備
- ・法規制等による生態系保全 鳥獣保護区、森林計画による機能区分、国有林の保護林等

流域森林の整備

- ・荒廃人工林の天然林化等の森林整備による水源かん養・土砂流出防備等の機能の維持・保全や保安林の整備
- ・ダム湖斜面の荒廃防止 樹林帯制度の導入による整備



2 利活用

憩いの場

- ・住民の憩いの場

体験学習の場

- ・自然観察や植林、伐採等森林整備の体験
- ・木工や炭焼きなど地元生活文化の体験
- ・ダム堤体やダム湖等の見学体験 案内施設、資料展示及び湖上(舟)など見学ルートの整備
- ・自然観察や体験学習のエコツアーの開設 自然観察路、拠点等の整備及び指導・案内人養成

交流の場

- ・上下流交流の場や企業貢献の場

新たな交流産業振興の場

- ・自然環境や優れた景観を活かした地域振興
- ・日本有効のダム湖を活かした従来の開発型ではない新しい発想の交流型産業の起業

調査研究の場

- ・大学等研究者への調査研究の場の提供
- ・先駆的調査研究による流域の自然環境保全

歴史文化継承の場

- ・全村移転した徳山村の歴史文化の継承 保存、移設、記録等
- ・旧村民による生活文化の継承
- ・林業技術や生活文化の体験学習の場

徳山ダム上流域 保全と利活用のイメージ ~ 利活用 ~



資料 8

ビジョン策定のスケジュールについて

[平成17年度]

第1回ビジョン会議：10月7日（金）

（内容） 会議の設立について

 ビジョンの内容について（基本的考え方）

（参考）徳山ダム建設事業の概況について



第2回ビジョン会議（現地）：11月中旬～下旬

（内容） コンセプト（基本理念）について

 骨格について

 1) 保全について

 2) 利活用について



第3回ビジョン会議：1月下旬

（内容） 中間報告（案）について



第4回ビジョン会議：3月中旬

（内容） 揖斐川水源地域ビジョン中間報告



シンポジウム：3月下旬

（内容） 徳山ダム上流域の保全と利活用に向けて（PRと意見聴取）



[平成18年度] 数回のビジョン会議



「揖斐川水源地域ビジョン」作成・公表（平成18年度中）